

足立区立六月中学校

第一回 進路説明会

令和8年5月19日(火)

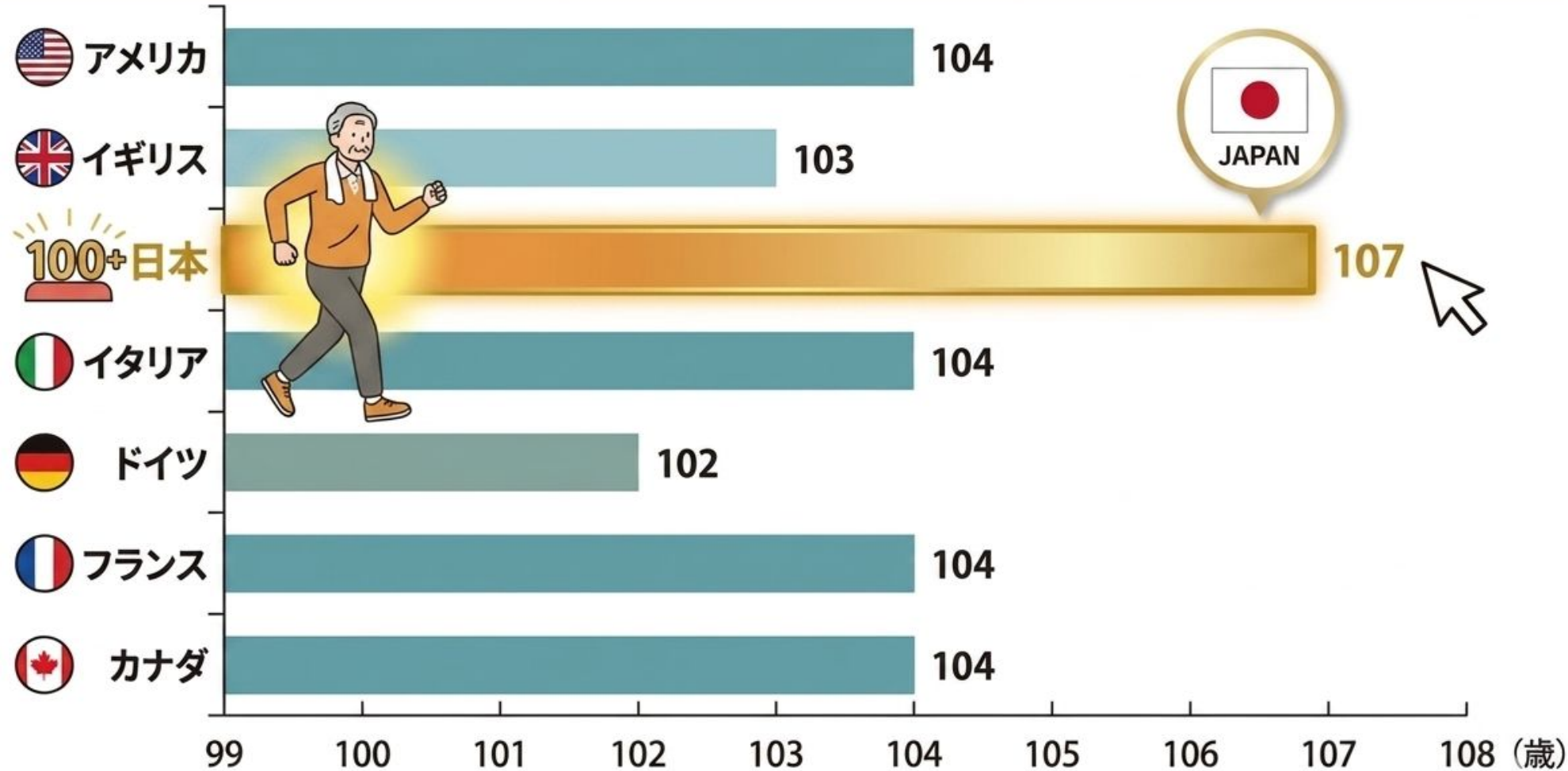
進路説明会の めあて

進路説明会を聞いて
今日から始めることを探す！！

本題に入るその前に・・・

人生100年時代

- 健康寿命が世界一の長寿社会。2007年に生まれた子供が107歳まで生きる確率が50%。¹⁰⁰⁺



【出典】平成29年9月11日 第1回人生100年時代構想会議資料4-2 リンダ・グラットン議員提出資料(事務局による日本語訳)より作成

【原典】Human Mortality Database, University of California, Berkley (USA) and Max Planck Institute for Demographic Research (Germany), Available at www.mortality.org

変化の激しい時代×人生100年時代

- 働く期間が長くなる
- マルチステージの時代へ



従来

3ステージ制
(教育・勤労・引退)

変化と挑戦

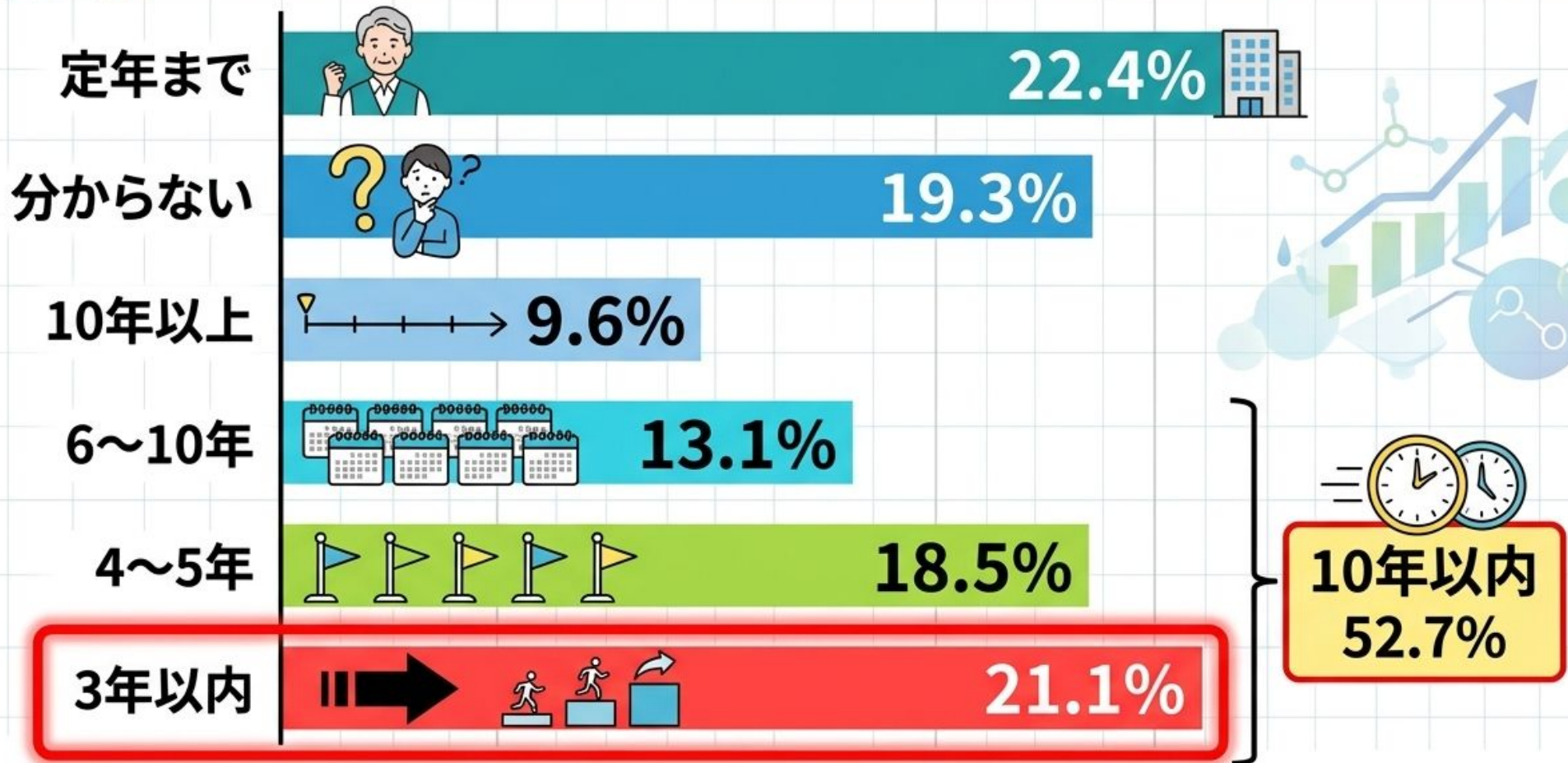
今後

マルチステージ制
(仕事から教育への再移行)





2025年新入社員 <今の会社で何年働く?>



転職は当たり前、その度に新たな適応、学習
先生がいなくても学ぶ経験・習慣も大事

高校を決めるための ヒント

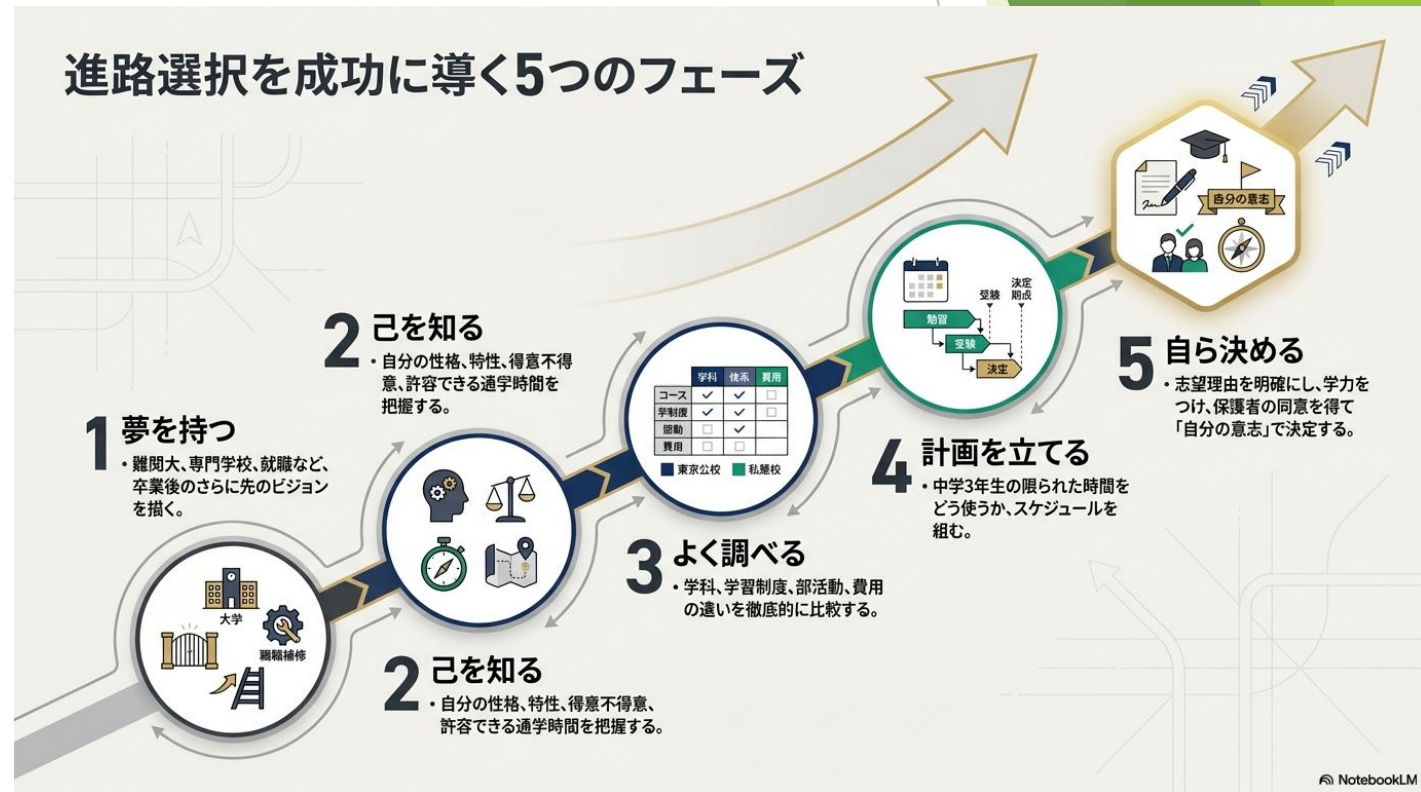
質問

東京都にある

高校の数ってどのくらい??

高校を決めるためのヒント

- 一、夢をもち
- 二、己を知って
- 三、よく調べ
- 四、計画を立て
- 五、自ら決める



高校を決めるためのヒント

1 高校卒業後の進路について(夢をもつ)

- ①難関大学に進学する。
- ②一般的な大学に進学する。
- ③専門学校に進学する。
- ④就職する。
- ⑤考えていない。
- ⑥付属校で充実した高校生活を送りたい。

高校を決めるためのヒント

2 高校卒業後の進路について(己を知る)

- ①自分の性格。
- ②自分の特性。
- ③自分の得意不得意。

話し合い活動
自分の性格や
得意なことを聞こう！

高校を決めるためのヒント

3 通学時間について（己を知る）

- ①30分程度。
- ②1時間以内。
- ③1時間半程度。
- ④何時間かけてでも。
- ⑤寮も可。

高校を決めるためのヒント

4 学習制度やコースについて（調べる）

- ① 全日制か定時制か通信制か。
- ② 学年制か単位制か。
- ③ 普通科か総合学科か専門性のある学科か。

高校を決めるためのヒント

5 部活動や特別活動について（調べる）

- ①全国大会に出場している。
- ②海外研修やボランティア活動がある。
- ③種類が豊富にある。
- ④部活動や特別活動に興味があまりない。

高校を決めるためのヒント

6 様々な違いについて（調べる）

- ①費用や施設等の違いについて。
- ②取れる資格等について。
- ③卒業後の進路について。

高校を決めるためのヒント

7 将来について（計画する）

- ①学習計画を立て進学先へのビジョンをもつか。
- ②夏休みの過ごし方をデザインする。

高校を決めるためのヒント

8 条件をクリアする（自ら決める）

- ①志望理由、志望動機を明確にする。
- ②合格するための学力をつける。
- ③保護者の同意を得る。

高校を決めるためのヒント

9 そのために

「上級学校訪問をする」

高校を決めるためのヒント

9 そのために

- ①都立・私立・国立
- ②高等専門学校
- ③高等専修学校
- ④サポート校（通信制高校との連携校）
- ⑤都立職業能力開発センター

入試制度について

～令和8年度入学者選抜の概要～
(昨年の抜粋)

入試制度について

1 都立高校の入試の種類

推薦に基づく選抜
(推薦入試)

一般推薦

文化・スポーツ等特別推薦

創造理数特別推薦

※一般推薦、特別推薦は同時受検可

学力検査に基づく選抜
(一般入試)

第一次募集

第二次募集

入試制度について

2 私立高校の入試の種類

①単願

②併願優遇

③一般入試

などがある。

都立高校の 推薦入試について

推薦入試について

1 推薦入試の目的と受検資格について

- ①六月中学校の推薦基準を満たす。
- ②各校の示す「本校の期待する生徒の姿」に相応しい。
- ③志望する高校が第一志望である。

推薦入試について

2 本校の推薦基準について

- ①受験(受検)を希望する高校への志望理由が明確である。
- ②行事・委員会・係活動・部活動に積極的に取り組んでいる。
- ③学校のきまりを守って生活している。
- ④3年間の欠席、遅刻、早退が少ない。(高校側の規定に従う)
- ⑤授業態度が良く、意欲的に学習に取り組み、提出物を忘れずに提出できる。
- ⑥1～5のことを進学した高校でも卒業まで継続できる。

推薦入試について

3 推薦入試の合否判定について

必須

- ◆調査書点
(総合成績の50%以下)
- ◆個人面接点

選択

- ◇小論文点又は作文点
- ◇実技検査点
- ◇学校設定検査点

総合成績

※『自己PRカード』
は個人面接の資料と
して活用します。

推薦入試について

注意！

都立高推薦入試に合格したら、必ず入学！

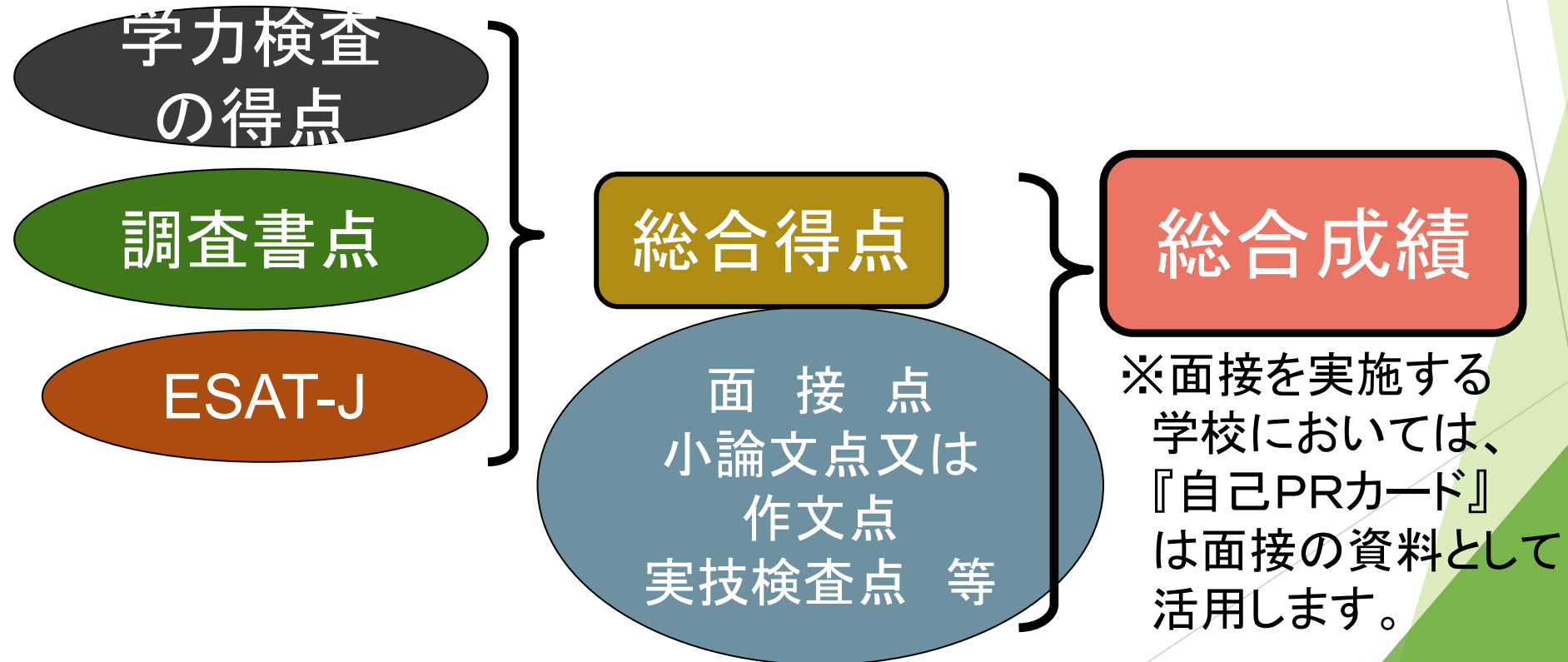
他の高校を受験することはできない！

(都立・私立・国立を問わず)

都立高校の 一般入試について

一般入試について

1 一般入試の合否について



一般入試について

2 学力検査の得点と調査書点の比率

【全日制課程】

募集	学力検査の教科数	学力検査の得点と調査書点の比率
第一次募集	5教科 (国・数・英・社・理)	7:3
第二次募集	3教科 (国・数・英)	6:4

※学校によっては、学力検査に加え、面接、小論文、作文、実技検査を実施する場合があります。

一般入試について

2 調査書点の算出

学力検査	評定を1倍	評定を2倍	評定の満点
5教科	国・数・英・社・理	音・美・保体・技家	65点
3教科	国・数・英	社・理 音・美・ 保体・技家	75点

一般入試について

2 調査書点の算出

例えば、次のような評定のAさんが、学力検査が5教科、学力検査の得点と調査書点の比率が7:3の学校を受検する場合

国	数	英	社	理	音	美	保体	技家
5	3	5	4	3	3	4	5	3

$$(5+3+5+4+3) \times 1 + (3+4+5+3) \times 2 = 50 \text{点}$$

$$50 \text{点} \times 300 \text{点} \div 65 \text{点} = \underline{230 \text{点}} \quad \text{※小数点以下切り捨て}$$

一般入試について

足立高校希望のAさんの場合

調査書点...230点

求められる総合得点(合格率60%)...600点

(合格率80%)...630点

必要な入試得点 ... $600 - 230 = 370$ **264点**

... $630 - 230 = 400$ **286点**

私立高校の 推薦入試について

推薦入試について

1 推薦入試(単願)の受験資格について

- ①六月中学校の**推薦基準**を満たす。
 - ②その高校で**個別相談**を受けている。
 - ③その高校を**第一希望**としている。
 - ④高校側の「**推薦基準**」を満たしている。
 - ⑤12月の**入試相談**(中学校と高校間で)に通している。
- ※多くの場合、面接や作文での試験を実施。

推薦入試について

2 併願優遇入試の受験資格について

- ①その高校で**個別相談**を受けている。
 - ②第一志望(主に都立高校)が不合格だった場合、その高校に**必ず入学**する。
 - ③高校側の「**併願優遇の基準**」を満たしている。
 - ④12月の**入試相談**(中学校と高校間で)に通している。
- ※多くの場合、一般試験と同日に同じ試験を実施。

話し合い活動
併願優遇って
何？

併願優遇とは・・・

第一志望校(都立高校や他の私立高校など)に不合格だった場合、その私立高校に必ず入学することを条件として、事前に合格の確約や試験での加点などの優遇措置を受けられる仕組みのことです！！

推薦入試について

3 単願推薦と併願優遇の基準の違いについて

足立区私立高校(総合コース)の場合

単願推薦

- ▶ 5科**18**
- ▶ 評定は**9教科に1**を含まないこと
- ▶ 合格後の辞退は**認めない**

併願優遇

- ▶ 5科**20**
- ▶ 評定は**9教科に2**を含まないこと
- ▶ 併願校は都立・私立を問わない

共通事項

- ▶ 3年間の欠席は原則として**20日以内**

私立高校の 一般入試について

一般入試について

1 私立一般入試について

① **優遇措置がなく**入試得点だけで決まる入試。

※多くの場合、難関校で実施。

一般入試について

2 第一希望(志望)入試について

- ①第一希望(合格したら入学金等を払う)であることを条件に入試得点に加点してくれる制度。

※単願推薦や併願優遇がない高校で実施(特に難関校)

私立高校受験の 考え方について

私立高校受験の考え方について

1 都立高校が第一志望の場合

- ① 第二志望の私立高校に併願優遇制度がある場合 → **併願優遇**
- ② 併願優遇を取るための素内申が足りない場合 → 一般受験
- ③ 第二志望の私立高校に併願優遇制度がない場合 → 一般受験
- ④ ②③の場合は、他の私立高校も受験するか、私立併願可能な高校の併願優遇を取る。(試験日が違うことを必ず確認する)

私立高校受験の考え方について

2 私立高校が第一志望の場合

- ① 第一志望の高校に単願推薦制度があり、
 - a 推薦の条件をクリアできている場合 → 単願推薦受験
 - b 推薦の条件をクリアできない場合 → 一般受験
- ② 第一志望の高校に単願推薦制度がない場合
→ 一般受験・第一希望受験
- ③ ①b、②の場合は、他の私立高校も受験するか、私立併願可能な高校の併願優遇を取る。(試験日が違うことを必ず確認する)

私立高校受験の考え方について

私立高校：戦略を分ける「3つの入試方式」

第一志望向け



単願推薦

- 第一志望専用（合格後の辞退不可）
- 【基準例】5科18以上（9教科に「1」を含まない）
- 12月の入試相談を通し、面接や作文を受験。

第二志望向け



併願優遇

- 都立等第一志望の「第二志望」確保
- 【基準例】5科20以上（9教科に「2」を含まない）
- 一般試験と同日に受験。都立不合格なら必ず入学。

実力勝負向け



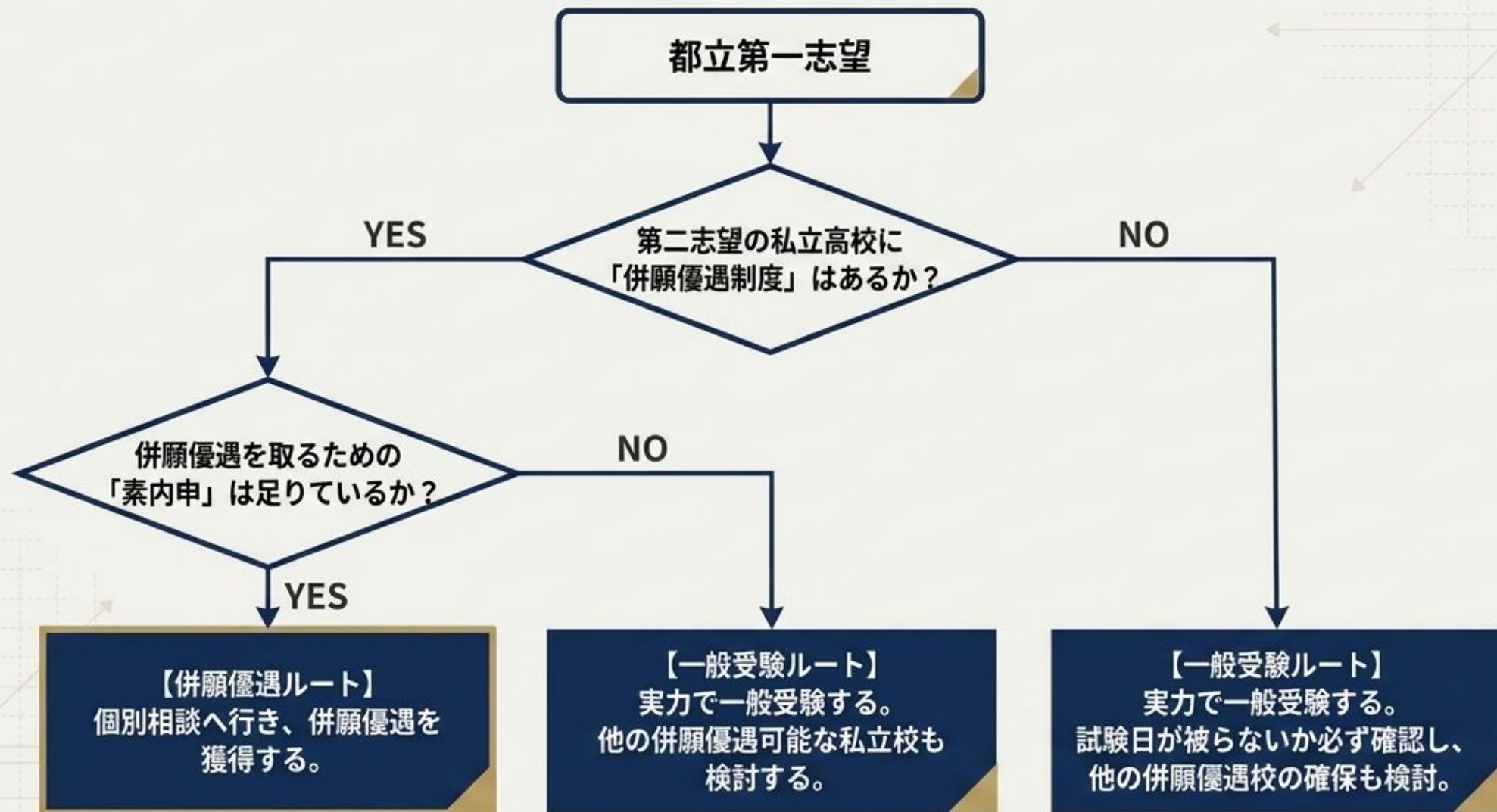
一般入試 / 第一希望入試

- 優遇措置なしの実力勝負（難関校に多い）
- 「第一希望入試」制度がある場合、入試得点に加算されるシステムも存在。

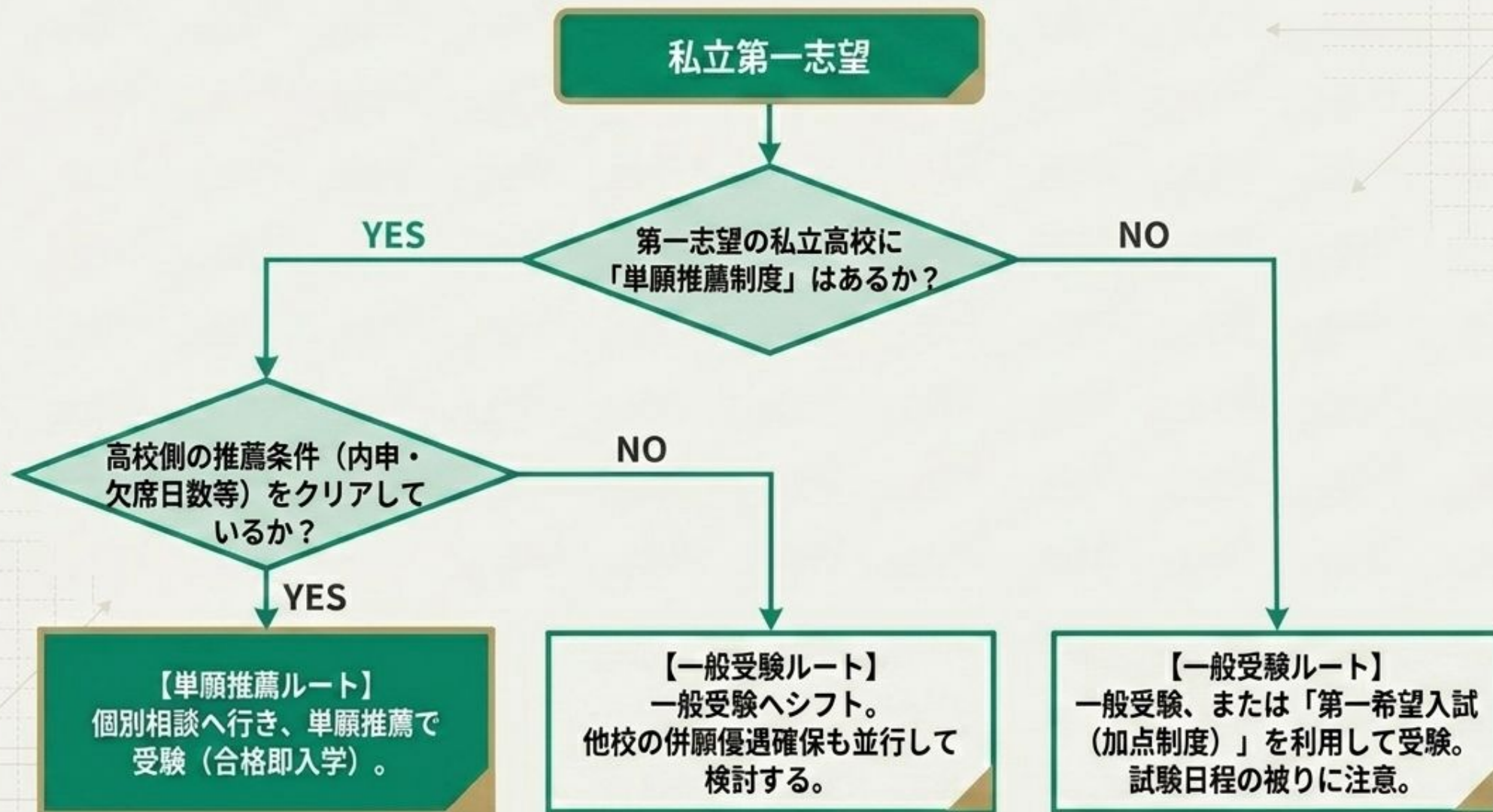
【共通条件】

3年間の欠席は原則として「20日以内」が必須条件（足立区私立総合コース例）。

決断フローチャート①：都立高校が第一志望の場合



決断フローチャート②：私立高校が第一志望の場合



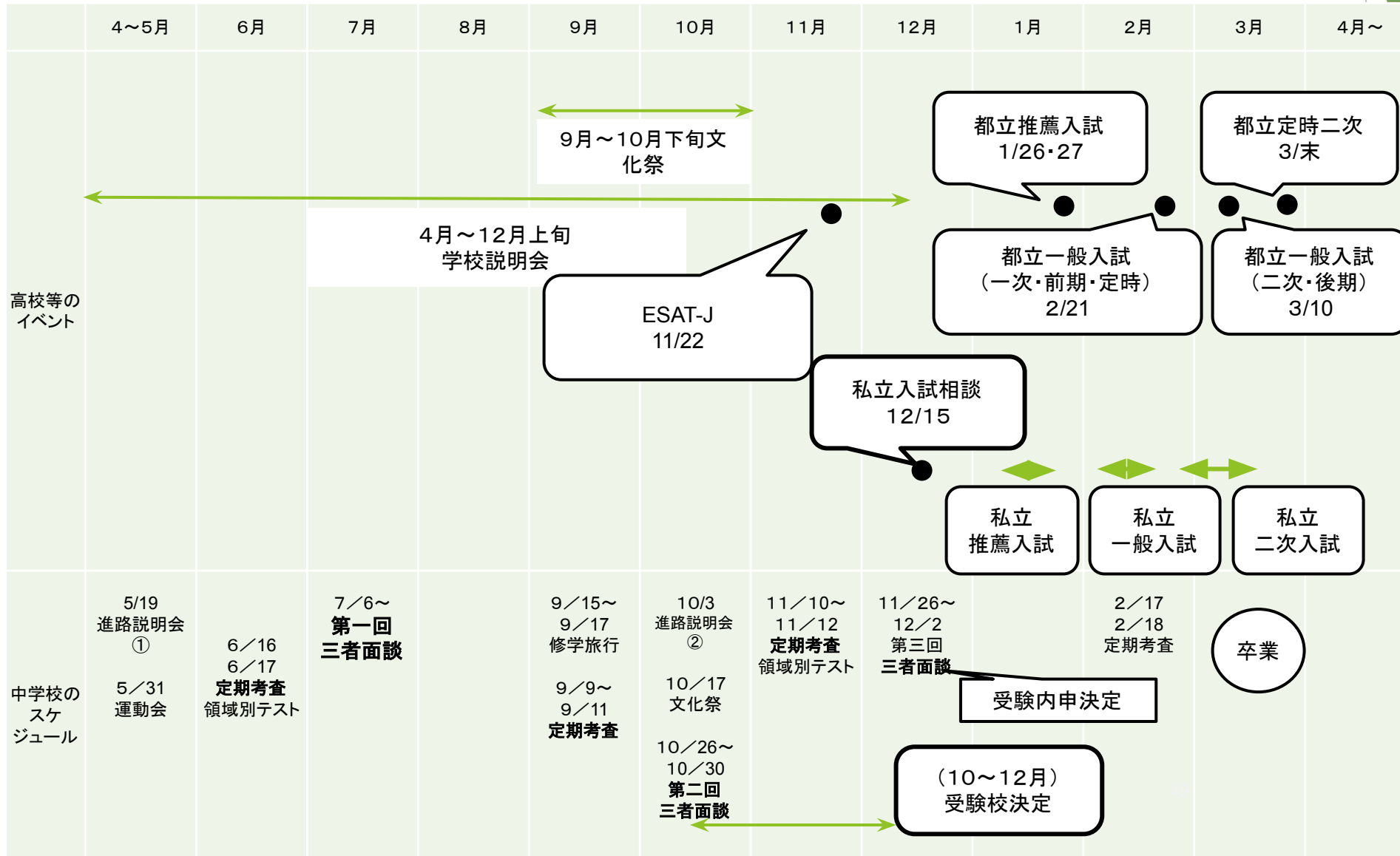
今後の予定とお願い

今後の予定とお願いについて

1 今後の予定

- ①希望の高校の候補を本人と保護者で確認 (第一回面談までに)
- ②受験(受検)予定の高校の説明会等に参加 (夏休み終了までに)
- ③第一志望校の方針〔都立or私立、推薦or一般〕 (前期終了までに)
- ④第一志望校の決定〔前期の成績を確認〕 (第二回面談までに)
- ⑤志望校の最終決定と書類等の確認 (第三回面談までに)

今後の予定とお願いについて



今後の予定とお願いについて

2 近年の動向について

- ①推薦、一次入試において全校インターネット出願。
- ②スピーキングテスト(ESAT-J)の実施。
- ③男女別定員の撤廃。
- ④7:3のみだけでなく 10:0の学校も増えるかも・・・

今後の予定とお願いについて

3 皆様へのお願い

①学校見学、学校説明会への親子での参加

※私立推薦入試を検討している場合は10月中旬までに参加

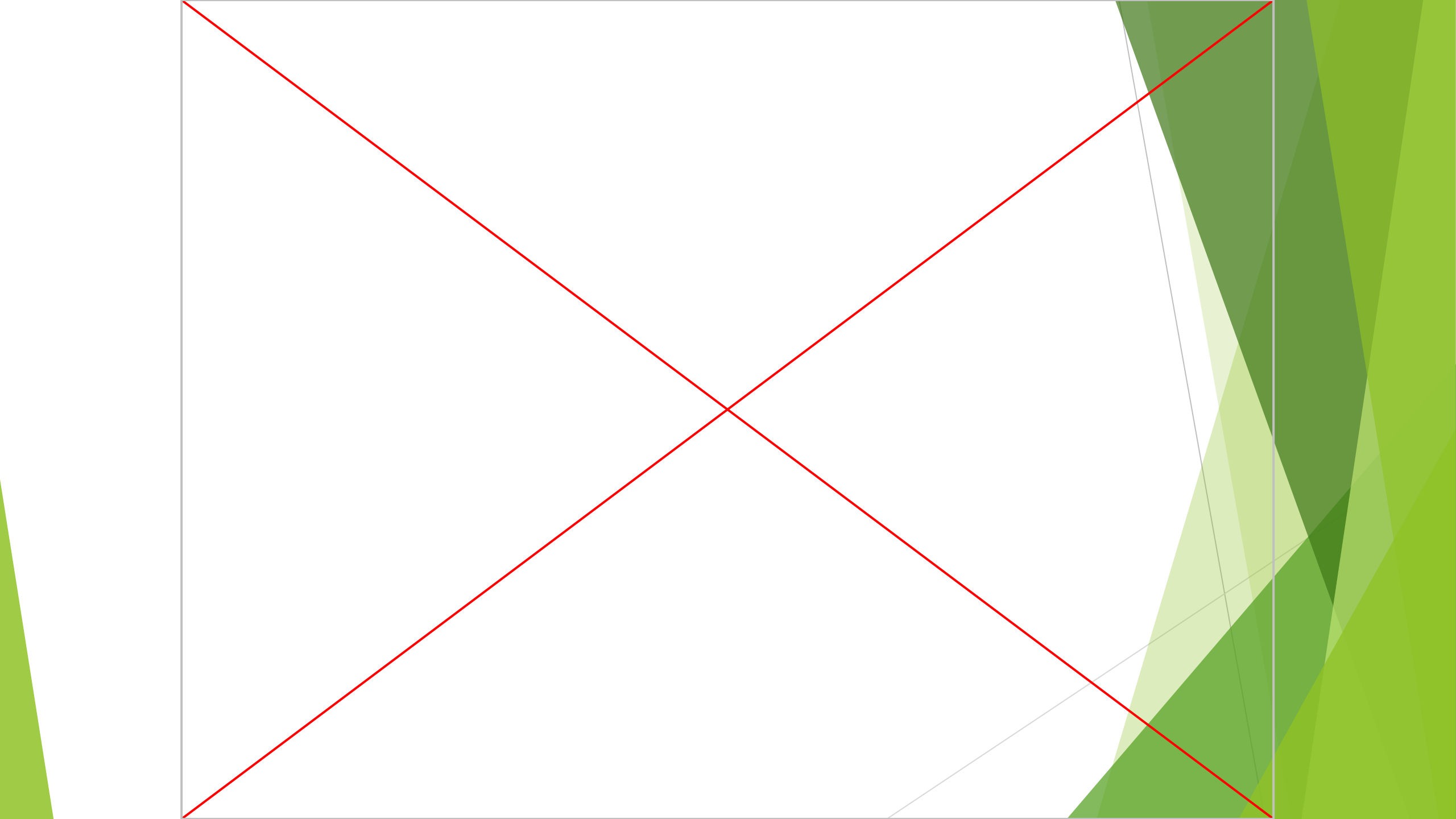
②都立推薦入試を検討している場合は自己PRカードの作成と
作文や小論文の対策を

本校の推薦基準について R8進路学習部

- ①受験(受検)を希望する高校への志望理由が明確である。
- ②行事・委員会・係活動・部活動に積極的に取り組んでいる。
- ③学校のきまりを守っている。
- ④3年間の欠席、遅刻、早退が少ない。(高校側の規定に従う)
- ⑤授業態度が良く、意欲的に学習に取り組み、提出物を忘れずに提出できる。
- ⑥ ①～⑤のことを進学した高校でも卒業まで継続できる。

本日のまとめ





ご清聴

ありがとう

ございました。

